VTS法による美術鑑賞単元における感染症対策の影響

Impact of measures against infectious diseases in the Art Appreciation unit by the Visual Thinking Strategies method

中　尾　泰　斗

Taito Nakao

1．はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、我が国の教育現場における対面授業は、換気、マスクの装着、距離の確保といった密閉、密接、密集を避ける対策（以下、感染症対策と記す）に基づいた環境構成が検討されるようになった。一方で、これまでの教育指針を踏まえ主体的・対話的な教育を実現していくためには、集団活動や対話活動にて感染症対策と相反する内容が求められる。

では、主体的・対話的な内容を含む教育活動における感染症対策は生徒の学びにどのような影響があるのであろうか。この点について、本稿は美術教育におけるVTS（Visual Thinking Strategies）[1]法(以下、VTSと記す)を用いた鑑賞単元に焦点を当てて検討する。本稿では、生徒が授業で使用した記述式教材（資料１）のステップ③,⑤と、授業後に配布した自由記述式の質問紙（資料２）の内容から学習成果と生徒が感じた活動中の感応をまとめた。なお、本研究は質問紙（資料２）の記入が任意であること、回答結果を研究活動に使用することを生徒に対して事前に説明し、承諾を得た回答紙のみを用いた。

2．授業の概要

2-1. 学習環境と授業の概要

本研究での学習環境と実施した授業内容、学習の目的は以下のとおりである。

実施日：2020年10月19日（月）３－４時間目

天候：晴れ　風あり

実施場所：Ｆ市立Ｆ高等学校美術室

教室の環境：窓と入り口を開放し、サーキュレーターを稼働（資料３）

授業参加者：教員　１名

生徒　高等学校１年生25名

参加者の状況：生徒は前期の単元にてVTSを経験している。参加者は全員マスクを着用し、授業前、美術室に入室する際に手洗いをしている。

単元名：鑑賞　-VTSを用いて②-

学習のねらい：鑑賞の能力を高め、美術作品のよさや美しさを感じる力や作者の心情、意図、表現の工夫を感じ取る力を身に付ける

学習目標

① 鑑賞法について理解しており、作品、作者についても理解している（知識・技能）

② 発想力豊かで、発想に至った経緯や根拠を示すことができる（思考力・判断力・表現力）

③ 他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を持つことができる。振り返りや検証もできる（学びに向う力・人間性）

鑑賞作品：石田徹也《燃料補給のような食事》（図１）（以下、本作品と記す）

2-2. 授業における留意点

作品鑑賞は資料１のステップ①から⑦に沿って行った。授業での全体への指示や作品解説（ステップ⑥）は教員がパワーポイントと発声にて行った。（資料４）

個人での鑑賞活動は、Ａ４版の厚紙に作品をカラー印刷した教材を生徒全員に配布し、生徒が他の生徒と

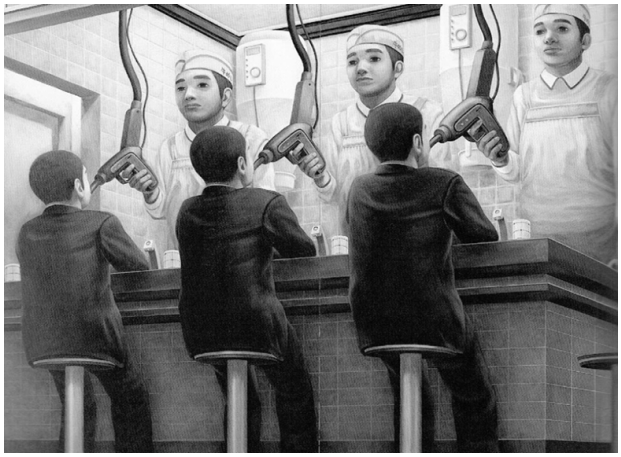


図１ 石田徹也《燃料補給のような食事》
145.6 × 206.0㎝、1996 年、静岡県立美術館

会話することなく行った。（資料５）

対話活動では生徒を４－５人ずつ５グループに分け、生徒同士の間隔を開けて向き合って着席した。（資料６）

３．学習成果

生徒は感染症対策を講じた学習環境下での VTS にて表１、表２のような気づきと理由、鑑賞のまとめを得た。表１と表２は、資料１におけるステップ③とステップ⑤をそれぞれまとめたものである。なお、回答には「人が立っている」といったような画中の状況を説明したに留まる内容があったが、本稿では学習のねらい及び学習目標に則り、作品理解に関わる生徒自身の発想が示された回答を抜粋した。また、同傾向の内容はまとめた。

個人の鑑賞活動（表１）では、「店員は心が無いロボット」といった店員の無表情さに着目した意見に代表されるような登場人物の様子や、機械が描かれていることに着目した「未来のお店の食事の仕方」といった画面の空間への注目があった。また、「誰かが見ている夢の話」といった作者の心情に寄り添おうとした意見もあった。

個人での鑑賞を経て行った対話活動では、作品に対して表２の意見がまとめられた。生徒らのまとめはグループ１とグループ５が示した「店員がロボット」という店員の無機質さに着目したまとめや、グループ３が「忙しい現代」としたように現代の多忙さと食事の在り方との関連性に着目した内容があった。

４．学習活動における感染予防対策の影響

上述した学習成果を得るにあたって、感染症対策が生徒に感じさせた学習時の影響について資料２の回答における個人活動とグループ活動、自由記述欄を基に示す。

4-1. 個人学習における特徴

個人学習では表３の内容が示された。肯定的な意見には、「自分で考えることがしやすくなった。他人と違う意見を出せた」、「美術の学習により集中して取り組めた」、「自分で作品を自由に思考することができる」といったように集中した取り組みや独創的な意見を構築できる学習環境であったこと、「距離が保てるので安全に授業ができる」というように感染症対策を講じることでの授業の安全性確保による安心感の獲得があった。

一方で、否定的な意見には「呼吸しにくかったから集中力が下がった」、「視界にマスクが入る」、「眠くなる」というような息苦しさや視界の阻害、眠気の助長といった集中力の低下や「先生の声が聞き取りづらかったり、コミュニケーションがとりづらい」のような教師への質問等におけるコミュニケーションの取りづらさといったマスクの装着での問題が挙げられた。

4-2. 対話活動における特徴

感染症対策の対話活動における影響は表４が感じ取られた。肯定的な意見には「飛沫が飛ばなので安心して活動できる」のように感染症対策による対話活動への安心感があったと示された。

否定的な意見には、「机が離れているので遠くにいる人の声が聞こえにくかった。」や「自分の声が相手に届いているのかわからなかった」に代表されるように、距離をとった会話による意思疎通の困難に起因したグループ活動の不十分さが挙がった。また、感染症対策を講じた対話活動は、意見交換の他にも、「わからないところ等が友達に相談しづらい」や「遠くの席の人のプリントがみづらかった」等、生徒同士の学習支援においても不自由を感じさせた。

表１　個人での鑑賞学習における気づきと理由

作品から気づいた出来事		理由
登場人物の様子	エプロンをつけた３人は誰かに指示されている	同じ方向を見ている
	客がロボット 個性を失っている 人間らしくない	眼がうつろで服装と髪型がみんな同じ
	店員は心が無いロボット、忙しい現代を表している	無表情な店員、同じ格好の客、機械で提供
	食事が義務	食事を楽しむ様子が無い
	労働時間が長い	店員の顔つきから
	養分を与えている 無音だと思う	店員がぼーっとしながら、客の口の中に何かを入れているから
画面の空間	きたない店の中	よごれたカウンターがあるから
	未来のお店での食事の仕方	見たことが無い機械を持っている
	お店ではなく、施設	お皿に盛りつけられていない
	明かりは蛍光灯	無機質な感じがする
	夜で地下にある	画面が暗いから
作者の視点	誰かが見ている夢の話	ストレスが溜まって幻覚が見えていると思った

表２　対話活動による鑑賞における成果のまとめ

	グループの意見	理由
1	店員はロボット	顔が全員一緒で無表情だから
	食事を流し込んでいる	牛丼屋で店員が客の口に給油機を突っ込んでいる
2	店員は誰かに操られている	表情が無いから感情が無い
	夜	会社帰りのように全体が暗い
3	忙しい現代	ご飯を食べる余裕がない忙しい現代を表している
	食事に執着がない未来	食事を楽しむ様子が無く、義務的なように見えるから
4	夢の中の話	現実の不気味さが投影されたような夢
	労働がきつい	店員の顔に生気がなく疲れているように見える
5	未来	機械を使い、栄養の効率を重視しただけの食事法に見えたから
	店員がロボット	ポーズ、服装が同じで目線が不自然だから

表３　個人学習における感染症対策の影響

良い点	悪い点
・自分で考えることがしやすくなった。他人と違う意見を出せた ・美術の学習により集中して取り組めた ・感染リスクが減る ・自分で作品を自由に思考することができる ・感染予防につながる ・距離が保てるので安全に授業ができる	・呼吸しにくかったから集中力が下がった ・視界にマスクが入る ・湿度や気温が高いと息苦しい ・先生の声が聞き取りづらかったり、コミュニケーションがとりづらい ・眠くなる ・一人の時は喋らないので意味が無いように思う

表４　対話活動における感染症対策の影響

良い点	悪い点
・飛沫が飛ばないので安心して活動できる ・感染しない	・多少聞こえにくくなったけど気にするほどではなかった ・グループワークがしづらかった ・机が離れているので遠くにいる人の声が聞こえにくかった。 ・飛沫の心配が減るので向かい合っても気にならない。ただ、声が聞きづらい、表情がわかりづらい ・自分の声が相手に届いているのかわからなかった ・コミュニケーションがとりづらい ・わからないところ等が友達に相談しづらい ・遠くの席の人のプリントがみづらかった

4-3. 自由記述にみるその他の意見

感染症対策の影響について回答した自由記述欄は表５の回答が示された。肯定的な意見では「暖かい」という体温調節に関わる意見や「距離があったので無駄話が減った」という授業の環境に関わる内容があった。否定的な意見には「メガネが曇る」や「むれる」といった身体的な不快、「窓を開けていて寒かった」という学習環境の質的低下が挙げられた。

表５　自由記述にみる感染症対策の影響

良い点	悪い点
・暖かい ・距離があったので無駄話が減った	・メガネが曇る ・窓を開けていて寒かった

５．VTS における感染症対策の成果と課題

本作品の制作意図は、「牛丼屋で食事をする時、自分がまるでガソリンスタンドに入っていく車のように感じる。その理由は、食事というより燃料補給に近いからだ。」（石田、2010）と、石田自身が記している。本作品は、一見してわかるようにその石田の制作意図に対応した具体的な形象が描かれている。このような本作品からは、堀切（2010）が石田作品の理解に関して指摘するように、画一化された機械的な社会生活と個人の関係性を風刺する態度が見て取れる。

以上を踏まえ表１と表２を振り返ると、作品理解への足掛かりが多い本作品は、作品鑑賞において「無機質で機械的な栄養補給」という作者の制作意図に沿った鑑賞の成果を生徒が得ていたといえる。つまり、感染症対策を講じた授業は学習のねらいや目標に関して十分な達成があった。一方で、感染症対策は「授業中の活動」という視点に焦点化した場合、学習効果を保証していくにあたって以下のような利点や問題点があった。

①密閉

本授業では密閉回避のために窓と入り口を開放していた。この状況は、表５で示された「窓を開けていて寒かった」からわかるように、寒さ（外気）対策への配慮が難しい学習環境であった。

本授業の実践時期は季節の変わり目にあたる。その季節性や資料４－６から理解できるような生徒の服装を踏まえると、換気対策を施した場における快適な学習環境の保証には、防寒具の使用における柔軟な配慮が望まれる。

②密接

VTS において、密接の状態は個人学習時の教師とのやり取りと対話活動時における生徒同士の会話時に発生した。これらの状況による飛沫の軽減を意図したマスクの装着は「美術の学習により集中して取り組めた」、「飛沫が飛ばないので安心して活動できる」といったように個人や集団での活動において授業の集中力や自由な考え、そしてその共有を平常時のように保証したと捉えられる。

一方で、マスクの装着は「視界にマスクが入る」、「メガネが曇る」といった視覚的な問題や「先生の声が聞き取りづらかった」といった会話における傾聴、「表情がわかりづらい」といったコミュニケーションの不自由さを露見した。このような密接状態による飛沫の軽減への対策は、マイクの使用や文字情報でのやり取りといった情報機器の活用が今後の課題となるだろう。

③密集

VTS において回避できない密集対策の影響は主に対話活動時に集中していた。

本授業では、マスクの装着や教室の面積に対して可能な限りの距離を確保することで密集の回避を目指した。その環境は、「飛沫が飛ばなので安心して活動できる」といったように生徒が安心感を持って授業に臨む一助となった。

ただ、そのような密集回避の対策は、先にも述べたように「机が離れているので遠くにいる人の声が聞こえにくかった。」や「声が聞きづらい、表情がわかりづらい」、「自分の声が相手に届いているのかわからなかった」、「わからないところ等が友達に相談しづらい」という、本来ならば VTS の学習環境において円滑な状態が求められるグループワークやコミュニケーションにおける不自由さを助長した。このような点を踏まえ、美術室という面積が限られた場で密集状態の回避を向上させるには少人数クラスの編成が挙げられ

る。そして、会話の聞こえづらさへの対応には、密接対策と同様に情報機器の活用が有効となろう。

6．おわりに

感染症対策は、本授業において学習のねらいや生徒の学習成果を著しく棄損する取り組みではなかった。しかし、受講の過程、すなわち学習環境に焦点化すると、生徒は活動における不快さや不自由さを受けざるを得ない状況であった。教育環境の向上を図るために、本稿で示唆したような対策を充実させていく場合、特に密接と密集の対策において物的充実と人的充実を図る必要があることはいうまでもない。つまり、感染症対策を講じた対面学習の環境整備は学校運営や教育行政からの配慮や工夫、柔軟な対応が教科教員の努力と共に欠かせない。

謝辞

本研究では、授業実践及び資料収集において福岡市立福翔高等学校美術科の吉井宏平先生にご尽力いただきました。この他、本研究の実現にご協力いただきました福岡市立福翔高等学校関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

註

1.VTS（Visual Thinking Strategies）は、認知心理学者アビゲイル・ハウゼンによって開発された対話型鑑賞活動である。1990年代を中心に開発、展開したVTSは、渡部（2010）でまとめられているように、本来的には子細なルールが設けられている。しかし、奥本（2006）が指摘するように、日本ではハウゼンと共に対話式鑑賞を研究したMoMA（Museum of Modern Art）エデュケーター、アメリア・アナレスが実践した「作品について対話する楽しさそのものを重視」した自由な対話活動が普及している。

引用・参考文献

石田徹也「個展プラン３」『石田徹也全集』求龍堂、2010年、p.203

奥本素子「協調的対話式美術鑑賞法：対話式美術鑑賞法の認知心理学分析を加えた新仮説」『美術教育学：美術科教育学会誌27』美術科教育学会、2006年、p.94

堀切正人「石田徹也とその時代」『石田徹也全集』p.7

渡部晃子「鑑賞教材『Visll TLinking Strategies』における教育目標の変化と特徴」『美術教育学：美術科教育学会誌31』美術科教育学会、2010年

図版典拠

資料１－６筆者撮影

図１『石田徹也ノート』求龍堂、2013年、p.70

表１－５筆者作成

資料

資料１

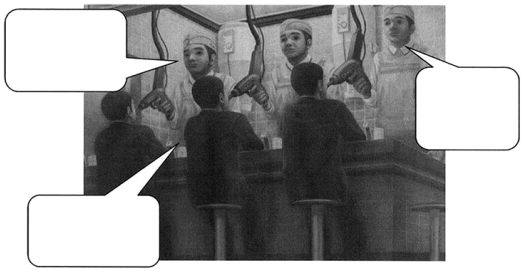
鑑賞①

ステップ①　１分間じっくりと作品を鑑賞しよう。

キーワード
この作品の中で何が起こっているのか？

ルール
他人と相談してはいけない！

ステップ②　作品の登場人物にセリフをつけてみよう。



ステップ③　この作品の中で何が起こっているのか？また、なぜそう思ったのかを書きましょう。（最低３つ）

・　理由
・　理由
・　理由
・　理由
・　理由
・　理由

ステップ④　４～５人のグループになって意見交換をしてグループの意見を決めよう。

メモ

ステップ⑤　グループの意見を２つに絞りましょう

	その理由
	その理由

ステップ⑥　この作品のタイトルと作者

タイトル	作者

ステップ⑦　R80　接続詞を使って２文で書きましょう！

資料２

1.一人での鑑賞や自分の意見をつくる、作家を知る等、個人での主体的な学習において距離の確保やマスクをすることは何か良い点や悪い点がありましたか？

2. 距離の確保やマスクをすることで、グループでの対話活動において何か良い点や悪い点がありましたか？

3.その他、距離の確保やマスクをすることによって、学習において何か良い点がありましたか？自由に記述してください。

4.その他、距離の確保やマスクをすることによって、学習において何か悪い点がありましたか？自由に記述してください。

資料３

資料４

資料５

資料６